



令和4年度体育指導力アップ研修会

6月16日に森町総合体育館において、体育指導力アップ研修会が開催されました。講師として勝又信晴教諭（磐田市立豊岡南小学校）をお招きし、「タグラグビー」の指導法を教えてくださいました。

「体育授業の基礎・基本 ～タグラグビーを通して～」

第一時
～
第二時



【基礎的な動きの確認 「タグの着脱競争」】

ベルトとタグの装着の仕方や、タグを取ったときの掛け声など、**基礎的な動きの確認**をしました。列ごとにチーム分けをして、タグの着脱を素早くできるかを競わせ、楽しさの中で集中して活動します。



【基礎的な動きの確認 「2人組タグ取りゲーム」】

2人組で手をつなぎ、相手のタグを取り合うミニゲームを行いました。シンプルなルールで、**楽しみながら**体の使い方を学びます。第一時に実践しても無理のない内容です。**勝敗を受け入れ**たり**礼儀を学ん**だりする機会にもなります。

第二時



【ドリル学習：ボールに慣れる運動】

特殊な形をしているボールの扱いに慣れることを目的に、①持って走る ②投げて走る ③転がして走る ④パスを出して走る などのドリル学習を行います。走りながらの活動は、**運動量の確保**にもつながります。

第三時



【試合形式：他チームでペアを組んで見合う】

試合を行う際には、試合をする人と見る人でペアを組み、互いに動きを見合うことで**アドバイスを送り**、**ふりかえり**をします。審判は教員が行い、試合を行いながら要所で止め、**ルールの共有化**を図ります。

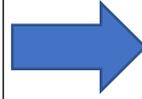
【 競技としてのタグラグビーの魅力 】

タグラグビーは、習い事の有無や個々の運動能力によって大きな影響を受けず、「**誰でも活躍できるチャンスがある**」スポーツです。ルールは単純で、かつ、どの子もボールに触れられる機会があるため、子供たちの「分かる」「できる」に加え、「**楽しい**」授業づくりにつながりやすい特性があります。また、運動量の確保も容易で、作戦面も追求できることから、授業の枠を飛び出してブームを起こすことも難しくありません。取り組みやすく、競技性の高いタグラグビーを、ぜひ各校で実践してみてください。

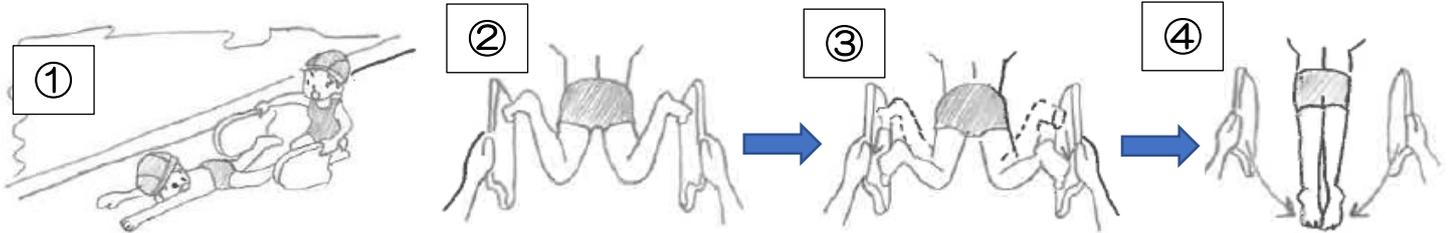
詳細は各校に配付されている資料をご覧ください。

水泳の授業で気になる子～授業で生かせる実践例～

○平泳ぎ(キック)
「キックの感覚がつかめない子」



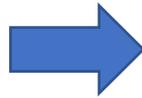
陸上ビート板作戦!
足首を曲げて閉じる動きを体感する。



- ① プールサイドで、腹ばい姿勢をとり、ビート板2枚を足の左右に立てて置く。
(子供・教師ペア、または、子供同士)
- ② 腹ばい姿勢で、足をお尻の方へひきつけさせる。そのあと、ビート板の壁の内側に、**足の親指の腹をこすりつける。**
- ③ 親指の腹を、**できる限り長く**ビート板にこすりつけながら、足を閉じていく。
- ④ 最後は足を閉じる。

※プールサイドで行う場合は、**ビート板を敷いて**行うと取り組みやすくなります。
※雨の日に**体育館でマットを使って**足の動きを確認することも効果的です。

○平泳ぎ(キック)
「浮けない不安がある子」



・スイムヘルパー作戦!
・つま先・パー&かかと DE
ハート作戦

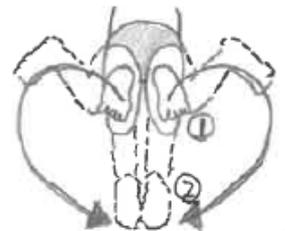


○スイムヘルパー作戦!
「浮けない」子は、**浮くこととキック、同時に2つの課題**に直面しています。その子のハードルを下げ、かえる足の習得に迫れるように、ヘルパー(補助具)を準備してみましょう。

○つま先・パー
つま先を広げようすると、**足首が反りやすくなります。**



○かかと DE ハート
かえる足の動きは、かかとで大きなハート型になるようにする。



〈参考文献〉

「気になる子の体育 つまづき解決 BOOK 授業で生かせる実例52」

監修:阿部利彦 編著:清水由・川上康則・小島哲夫 学研教育みらい